



果樹特報

No.7

平成 30 年 6 月 22 日
J A 中野市営農センター
J A 中野市りんご・もも部会

梅雨前半は少雨で経過しましたが、後半の高温多湿により、輪紋病・炭そ病等主要病害の果実感染拡大が心配されます。この期間は特に予防散布を徹底してください。また、生育が進んでいる本年はシンクイムシ類の早期多発が心配されます。密度が低いこの時期から防除を徹底してください。

りんご

7 月上旬の薬剤散布（前回より 15 日後）

散布時期：7 月 1～5 日

散布薬剤：水

1 0 0 リットル

展着剤

1 0 ml

*注意事項①参照

劇物 バイスロイド EW

5 0 ml

（7 日前、4 回）

*注意事項②参照

ナリアWDG

5 0 g

（前日、3 回）

*注意事項③参照

スイカル

1 0 0 g

散布量：10a 当り 600 リットル

対象病害虫：輪紋病、炭疽病、斑点落葉病、褐斑病

シンクイムシ類、ハマキムシ類、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ

➡ 散布日：7 月 日

➡ 散布量 リットル

◆ 注意事項

- ① 通常展着剤（ハイテンパワー等）に代えて、機能性展着剤のササラの 2000 倍（100 リットルに 50ml）を使用すると薬液が葉裏（毛じ間）によく広がり、散布後の乾きも早くなる効果がある。
 - ② バイスロイド EW は劇物登録薬剤です。購入の際は印鑑を持参してください。
 - ③ ナリアWDGは、ピオーネ・サニールージュ等に薬害を生じる恐れがあるので飛散しないようにする。
- ➡ 枝らん病・褐斑病対策：トップジン M 水和剤 1,000 倍（前日、6 回）を加用する。
- ➡ 苦土・マンガン補給対策：葉面散布剤グリーンデイズ 1,000 倍を加用する。（600 リットル当り 895 円）
- ➡ 輪紋病・炭そ病対策：IC ボルドー412 の 33 倍を 6/25～30 頃に特別散布する。ただし、つがる等の早生種にはボルドー液は散布しない。

◆ りんご 7 月上旬の特別散布及び殺ダニ剤の選択は次頁をご覧ください。

梅雨後半は、輪紋病・炭疽病・褐斑病の最重要防除期です。急激な高温多湿で病害の感染が一気に拡大する恐れがあります。毎年、腐敗性病害が多い園では、下記の特別散布を実施し、病害の予防に努めてください。

りんご

7月上旬の特別散布

散布日: 7月 日

散布量 ㍓

◆ 散布時期: 7月 7~10日

* 注意事項①参照

◆ 散布薬剤: 水

100㍓

展着剤

10ml

* 注意事項②参照

オーソサイド水和剤 80

125g (14日前、6回)

* 注意事項③参照

◆ 散布量: 10a 当り

600㍓

◆ 対象病害虫: 輪紋病、炭疽病、斑点落葉病、褐斑病、

(ハダニ類)

- ◆ 注意事項
- * 必ずお読みください。
- ① 前回 (7月上旬の定期散布) から7日後を目安に散布する。

② 固着性展着剤のアビオンEの1000倍 (100㍓に100ml) を使用すると薬液付着効果が高まる。

③ オーソサイド水和剤80に代えて、オキシラン水和剤500倍 (14日前、4回) でもよい。

④ ハダニ類対策: 7月中旬 (第9回) 散布予定のダニコングフロアブル2,000倍 (前日、1回) を繰り上げて今回の薬剤散布に加用する。尚、ダニコングフロアブルに代えてスターマイトフロアブル2,000倍 (前日、1回) でもよい。

◆ 次回の定期薬剤散布 (梅雨明け後) は、7/15~20頃の予定です。

ハダニ類やシンクイムシ類の最重要防除期です。梅雨明け7日以内に確実に散布するように予め計画してください。

参考資料：殺ダニ剤の選択

薬剤名	倍率	使用基準	使用回数	IRACコード	種類に対する効果		ステージに対する効果		
					リンゴハダニ	ナミハダニ	卵	幼若虫	成虫
オマイト水和剤	750	3日前	1回	12	○	○	○	○	○
コロマイト乳剤	1000	前日	1回	6	○	○	○	○	○
ダニゲッターフロアブル	2000	前日	1回	23	○	○	○	○	△
スターマイトフロアブル	2000	前日	1回	25A	○	○	○	○	○
ダニサラバフロアブル	1000	前日	2回	25A	○	○	○	○	○
ダニコングフロアブル	2000	前日	1回	25B	○	○	○	○	○